

テレビ・ラジオ視聴の現況

平成 19 年 11 月全国個人視聴率調査から

世論調査部（視聴者調査）

日本放送 / 放送文化 /
放送協会 / 放送文化

2007（平成19）年11月に実施した全国個人視聴率調査の結果を報告する。

調査期間は11月12日（月）～18日（日）の1週間、調査相手は全国の7歳以上の国民5400人で、有効数は3645人（67.3%）であった。

今回の調査期間中に、番組編成に影響するような大きな出来事はなかった。

調査方法、有効調査相手のサンプル構成比など、調査の概要については本文に掲載した。視聴率1%あたりの推定視聴者数は、全国で約118万人である。

なお、サンプル調査の結果は誤差を含むため、2つの数値を比較して統計的に意味のある差（有意差）がある場合は、文中では、「減少」「増加」など、有意差がない場合は「変化なし」「同程度」などと表現している。

I. テレビ

1. 視聴時間量・週間接触者率

地上波と衛星波を合わせたテレビの1日の視聴時間（過平均）は3時間53分（前年3時間58分）で、長時間視聴の傾向が続いている。30区・民放別に見ると、30区電計は1時間5分（前年1時間4分）、民放電計は2時間48分（前年2時間54分）で前年と変わらない（図1）。このうち、衛星放送の視聴時間は9分（30区衛星計5分、民放衛星計4分）である。

なお、30区総合テレビの週間接触者率（1週間に5分以上見た人の割合）は60.4%（前年62.0%）で減少している。

図1 テレビ視聴時間の推移（1日、過平均）

